

情勢報告

1年間の普及実績を報告！ ～安芸地区普及推進協議会～



今後も環境制御技術を進めていきます

2月28日、田野町ふれあいセンターで平成28年度安芸地区普及推進協議会を開催しました。関係機関と生産組織代表者等構成委員24人の出席がありました。

農業改良普及課は平成28年度に取り組んだ重点プロジェクト、総合課題、個別課題の取り組み実績を報告し、参加委員から意見を聞き取りました。

委員からは「環境制御技術に関する勉強会は生産者のレベル別に今後も実施してほしい」「担い手の確保のためには、農業研修後の実践施設は全域に必要である」「集落営農塾は今後も継続してほしい」等の意見がありました。

農業改良普及課は、委員からの意見を参考に平成29年度普及計画を作成します。

今年度の環境制御技術の取り組みはどう？ ～中間成績の情報共有と意見交換です！～



聞き逃すまい！

3月9日、JA土佐あき本所において第2回安芸地区環境制御技術普及推進会議を開催し、生産者代表7人と関係機関職員30人が出席しました。

農業改良普及課はナスや米ナス、キュウリ、花き類の環境制御技術実証ほの中間成績などを説明、県関係機関からはH28年度試験成績の中間報告があり、増収効果や経済性などについて意見交換しました。

また、第1回に続き「管内での環境制御技術普及拡大へ向けての方策」の意見を募ったところ、生産者代表から「基本の見える化から始めて必要性を感じてもらわんと！」「技術導入農家の出荷コンテナ数は皆が注目している！」「補助金が無くてもやりたくなる技術にせんと！」といった意見や提案をいただきました。

農業改良普及課は、次年度も年2回の開催を計画しており、生産者代表、関係機関と協力しながら環境制御技術導入の推進と技術の普及に向けて取り組みます。

炭酸ガスの効果はどう？ ～土佐あき園芸研究会米ナス部会～



炭酸ガス施用について意見を交わす
生産者と普及指導員(手前)

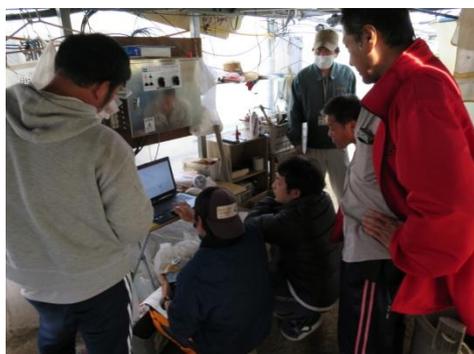
3月14日、JA土佐あき園芸研究会米ナス部会が安芸市で目慣らし会、現地検討会を開催し、生産者10人が参加しました。

農業改良普及課はほ場で、環境制御技術の実証ほの生育・収穫所要日数調査の中間報告と3月以降の病害対策を話しました。生産者からは「炭酸ガスの効果はどう？」「芽吹き、実どまりがいいみたい」「炭酸ガス施用区では収穫所要日数が短いね」などの声があり、活発な勉強会になりました。

今後も、部会活動などを通じて環境制御技術の情報を提供し、技術の普及を図ります。

情勢報告

環境制御してみても、どう？ ～穴内集出荷場環境制御勉強会を開催～



環境データと樹姿を見比べると
おもしろい！

3月2日、穴内集出荷場研究会が環境制御の勉強会を開催し、16人の生産者が参加しました。

まず、環境制御技術を導入している3ほ場を巡回しながら、それぞれの管理状況について意見交換しました。その後、農業改良普及課から炭酸ガスの施用量・日射比例かん水装置のかん水量設定についての勉強会を行いました。現地巡回で「このほ場ならもっと昼間の温度を上げて管理した方が良い」といった意見や、勉強会で「（日射比例かん水装置を導入して）もう前のかん水管理には戻れない」という意見等が聞かれ、生産者同士での積極的な技術交換の場となりました。

農業改良普及課は、今後も環境制御技術の定着と発展を支援します。

樹高3mのナスの樹に驚愕！ ～芸東ナス部会が農業技術センターを見学～



まるでナスの壁やね！

2月27日に芸東ナス部会の生産者12人が農業技術センターの養液栽培と、高軒高のナスハウスを視察研修しました。

養液栽培のナスハウスには、炭酸ガス施用装置、細霧冷房装置が設置されており、「涼しい！自分のハウスにあったらボケ果が減るやろうね」と生産者の関心を高めることができました。

また、高軒高ハウスでは樹高3mのナスを栽培しており、「収穫がおおごとやね！」と驚いていました。

その後、農業技術センターと農業改良普及課から春先に注意が必要である黒枯病、フザリウム立枯病の芸東地区の発生状況や、適切な薬剤とその散布方法を指導し、生産者の理解を深めることができました。

この時期の品質・収量はどうですか？ ～ナス県育成品種「慎太郎」栽培ほ場を巡回～



生育状況や品種評価の聞き取りを行う
普及指導員ら

農業改良普及課は3月8日5人、17日2人で県育成品種「慎太郎」の外観品質、収量性等について管内全域の8ほ場（無加温2、加温6）を巡回して現地調査と生産者の品種評価を聞き取りました。

調査したほ場の生産者からは「厳寒期の青ベタ・赤果は土佐鷹や竜馬に比べて出やすいが、摘葉の程度で一定改善できる」「土佐鷹と比べると外観品質はやや劣るが厳寒期の収量性は良い」「竜馬と比べると黒枯病は出やすいが栽培環境の改善で対応できている」「無加温でも竜馬と比べて果形はきれいで芽の整理も楽」「来作も栽培を継続する」「栽培拡大したい」と回答がありました。

引き続き増量期である5月にも巡回調査を行い、今後のナス品質向上の資料とします。

情勢報告

土佐あき産園芸品のPR！ なす祭り in 大阪の開催



生産者が「環境にやさしい農業」を講義
こだわりを持って栽培しています！

3月10日、JA土佐あき消費拡大連絡協議会による「第15回なす祭り in 大阪」が大阪市中央卸売市場で開催され、主要品目のナスやピーマン、ユズなどの消費宣伝を行いました。

今回、協議会から女性生産者や関係機関など18人が出席し、関西在住の栄養士、野菜ソムリエを中心にした参加者22人に、ナスなど特産品料理11品の講習や試食、「環境にやさしい農業」の出前授業を行いました。参加者は、「こんな食べ方があるんや」などナス料理の豊富さにびっくりし、「美味しい」といいながら料理を食べていました。

農業改良普及課は、講習資料の作成や出前授業の準備等を行いました。今後も、ナスなど特産品の消費拡大への取り組みを支援します。

病害虫の防除をしっかりと！ ～唐浜ピーマン部会～



品質はどう？

2月27日、唐浜集出荷場研究会ピーマン部会が安田町で目慣らし会と勉強会を開催し、生産者9人が参加しました。

農業改良普及課は、今後注意が必要なへた腐病の対策と現在問題となっているチャノキイロアザミウマの防除について情報提供しました。生産者からは「へた腐病対策にみんなで取り組もう！」「チャノキイロアザミウマは厄介な害虫だ」「どの農薬が効く？」などの声があり、活発な勉強会になりました。

今後も、病害虫対策などの情報提供を通じて部会活動を支援します。

ポンカン部会吉良川支部が総会を開催



熱心に議論しています

3月16日にJA土佐あき果樹部ポンカン部会吉良川支部が総会を開催し14人が参加しました。今作から光センサー選果と東洋町のポンカンとの一元出荷・販売を開始し、特選品の設定等の新たな販売の取り組みや販売結果等が報告されました。

農業改良普及課室戸支所からは、光センサー選果の結果を栽培管理の見直しや出荷適期の判断に活用していくことを提案しました。

生産者は光センサー選果の導入によって、今まで以上に食味重視の販売戦略に移行したことを実感し、外観だけでなく食味も良い果実を生産、出荷していくことへの意識が高まりました。

今後、農業改良普及課は、光センサー選果の結果を活用し、JAと協力して各生産者にあった栽培管理や出荷適期を指導し、産地力向上を目指します。

情勢報告

田野町を支える担い手対策へ！ ～田野町就農支援チーム会～



就農計画案をもとに出席者が資金繰りの見直しをイメージしています

3月3日に田野町役場で開催された田野町就農支援チーム会で、園芸研究会代表者と担い手協議会メンバーが就農支援の現状と課題を共有しました。今回から園芸研究会代表者に出席してもらい、ともに就農相談活動や農地・ハウスの情報収集活動を進めることにしました。

チーム会の後は、研修生を交えて就農準備の計画を打合せ、農業改良普及課から資金繰りの改善に向けた就農計画案の見直しを助言しました。研修生から「もう少し設備投資を抑えようか」「家計費を切り詰めるのは難しい」といった声があり、チーム員の助言のもと今後計画を見直すことになりました。

農業改良普及課は今後もチーム会での提案や助言を継続し、就農支援チームのさらなる活動の充実と担い手確保につなげます。

集落営農に取り組もう！ ～東洋町野根地区集落営農勉強会～



できる人がいる内に始めましょう！

3月7日、農業改良普及課は、東洋町野根地区の多面的機能支払協定「中村中島保全会」を対象に集落営農勉強会を開催し、水稻生産者9人の出席がありました。

農業改良普及課から、集落営農の必要性等について説明した他、県外の先進地の取り組み事例を紹介しました。

その後、参加者との意見交換を行い、「今は困っていないが将来的には集落営農は必要」「今後も勉強を継続していきたい」と組織化に向けて前向きな意見が出される等、貴重な意見交換ができました。

今回出された意見も踏まえて、各地域で集落営農の組織化に向けた話し合いが進んでいくよう、農業改良普及課は関係機関と連携して支援します。

6次産業化に取り組んでみませんか



野菜の規格外品も利用してみませんか！

2月27日、JA土佐あき2階会議室で、農業改良普及課の主催で6次産業化講習会を開催し、6次産業化実践者及び志向者20人が参加しました。

講師の「(株)こうち暮らしの楽校」の代表取締役 松田高政氏から県内の取り組み事例を中心に6次産業化とは何か、商品開発の視点や販売についてわかりやすい説明がありました。

参加者から、「農産物の有利販売や農産加工品の開発・改善に新たに興味を持った」という意見が出されました。

農業改良普及課は、今後も6次産業化を目指す個人や生産者グループの活動を支援します。

情勢報告

蔵元の本音を聞きたい！ ～ J A 土佐あき特産部会東川酒米研究会意見交換会～



酒蔵見学で見せてもらった酒造りに用いられる種麴（コウジカビ）

3月17日に、東川酒米研究会が自分たちの生産した酒米「吟の夢」で日本酒を醸造している蔵元と今作の反省会を兼ねた意見交換会を開催しました。有光酒造場（安芸市赤野）の酒蔵見学後、J A 土佐あき東支所で行った会議では、生産者9人と蔵元3社（濱川商店、有光酒造場、アリサワ）、J A 4人、振興センター2人の計18人が一堂に会し、意見を交わしました。

農業改良普及課は、今作の気象や栽培方法に関する試験成績、酒米の品質分析結果を報告しました。

蔵元からは「今年の米はやや硬かった」「今後も品質のばらつきがない米がほしい」といった意見があり、部会からは「今後も品質を維持し、蔵元に満足してもらえる米作りをしよう」と決意表明がありました。

農業改良普及課は、酒米品質と産地の維持・拡大を目指し、部会の取り組みを支援します。